「100より大きい数」の表し方と数の大小をわかりやすく解説

100より大きい数は、どうやって表したらいいかのかな？

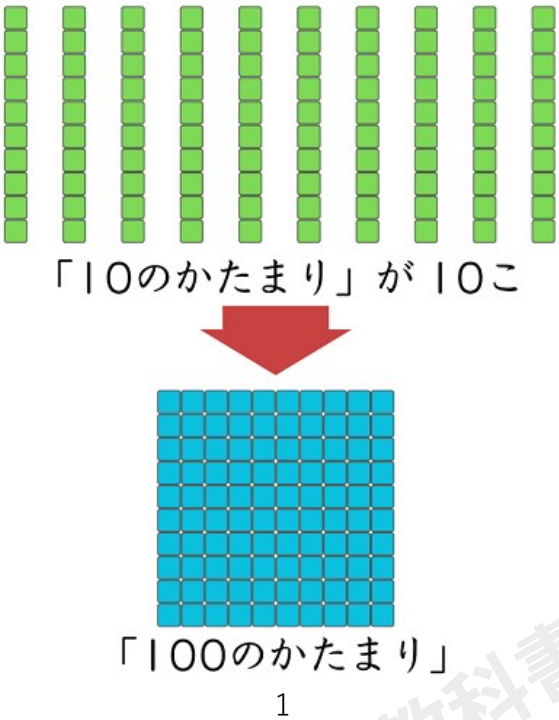
100より大きい数とは

「１０より大きい数」を数（かぞ）えるときは、１０のかたまりを作（つく）って　数えていたよね。

「１０のかたまり」は　１０あれば、　１００　になるんだったよね。

では、１００より大きい数は　どうやって　数えればよいのかな？

そう、１００　よりも　大きい数を　考（かんが）えるときも、「１００のかたまり」を　作って　数えるようにすれば　いいんだよ。



© ゆみねこの教科書

数の表し方としくみ

なん百の数

百（ひゃく）を　２こ　あつめた数は　二百（にひゃく）、　百を　３こ　あつめた数は　三百（さんびゃく）と　言うよ。

まずは、なん百の読み方を　かくにん　しよう！

どんな数（かず）	数字（すうじ）	漢字（かんじ）	読み方（よかた）
百を1つ	100	百	ひゃく
百を2つ	200	二百	にひゃく
百を3つ	300	三百	**さんびゃく**
百を4つ	400	四百	よんひゃく
百を5つ	500	五百	ごひゃく
百を6つ	600	六百	**ろっぴゃく**
百を7つ	700	七百	ななひゃく
百を8つ	800	八百	**はっぴゃく**
百を9つ	900	九百	きゅうひゃく

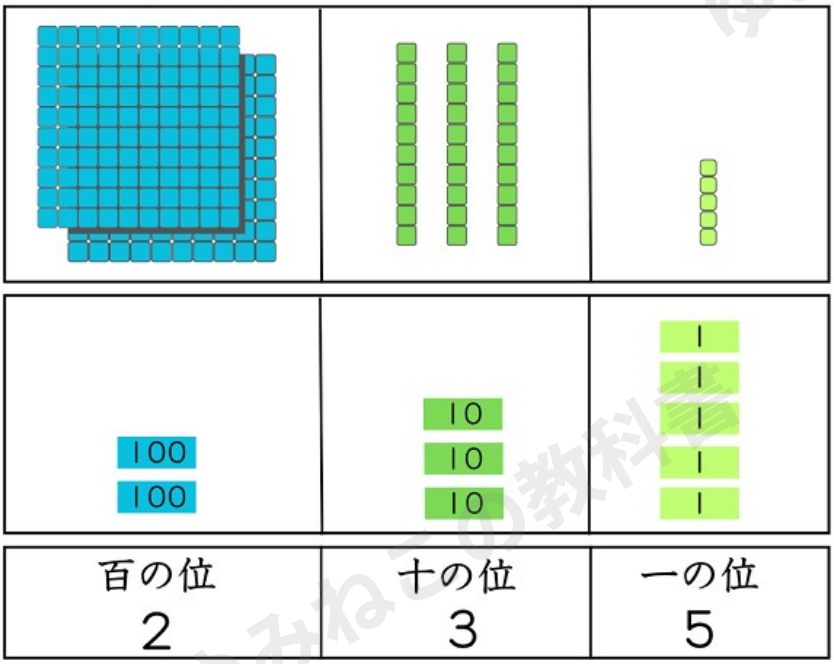
三百（さんびゃく）、六百（ろっぴゃく）、八百（はっぴゃく）は、読み方に注意だね！

数の表し方

大きな数を　考えるときは　「１００のかたまり」、「１０のかたまり」、「１のばら」が　それぞれ　いくつ　あるのかを　考えれば　いいんだよ。

たとえば、二百（にひゃく）三十（さんじゅう）五（ご）は、　次のように考えるよ。

© ゆみねこの教科書



２３５の　百の位（くらい）は２、　十の位は３、　一の位は５　だね。

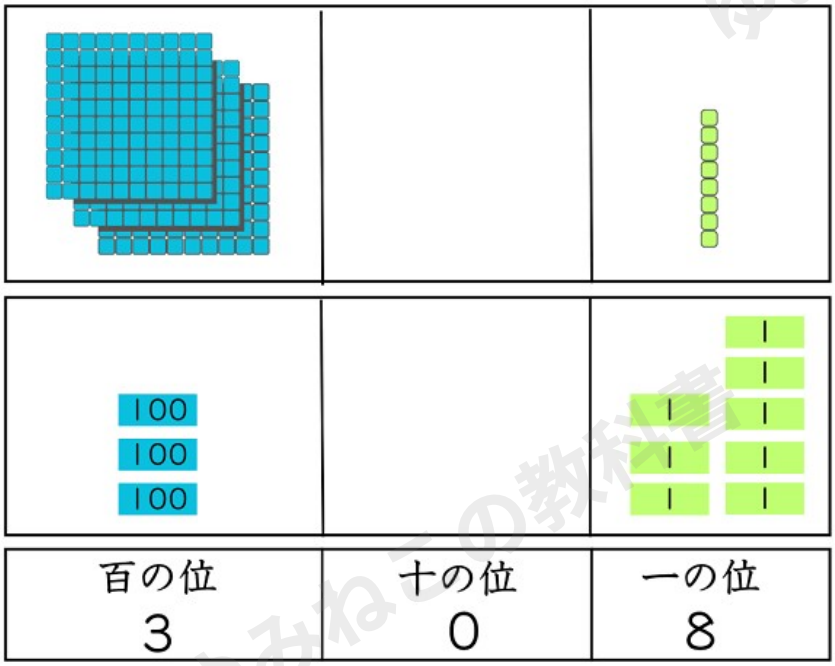
二百三十五は　２３５と　書きます。

じゃあ、たとえば　三百八なんていう数を数字で書くときは　どうすればいいのかな？

百が３こ、一が８こ　ということだよね。
でも「１０のかたまり」はないよね。

「十の位」が　ないときは、　どうすれば　いいんだろう？

© ゆみねこの教科書



「１０のかたまり」は　ないから、　十の位は「０」に　すれば　いいんだね。

ないからと言って「０」を書かないと、「３８」になってしまって　ちがう数字に　なってしまうよ。

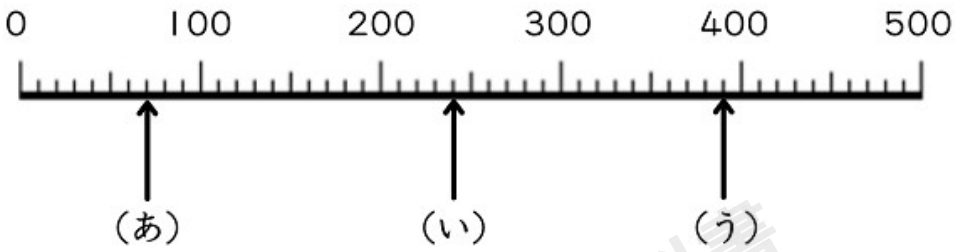
三百八は　３０８と　書きます。

数の線

数の線（せん）を　読よむときは、　１つの「めもり」が　いくつになるかを　考えないと　いけないんだ。

© ゆみねこの教科書

（あ）（い）（う）の　やじるしの　数字を　数えるよ。



１つのめもりが「１」ずつだとおもって数えると、０から１０こ　すすんだだけなのに　１００に　なってしまうよね。
なんだか　へんだよね。

１つのめもりが　いくつになるかを　考えるには、まずは　ある数字からある数字まで、いくつ　めもりが　あるかを　かくにんしよう。

たとえば、０から１００まで、いくつの　めもりが　あるかな？

０と１００の間（あいだ）は、　１０に　分けられているね。

ということは、１つの　めもりが　いくつかを　けいさんするには、１００を　１０こに　分ければ　いいんだ。

つまり、　１つの　めもりは　１０ずつ　だよ。

めもりを　数えるとき、１０、２０、３０、４０って　１０ずつ数えると、ピッタリに　なるね！

ということは、（あ）０から７つぶん　すすんだところだから、１０が７つで、７０だね。

© ゆみねこの教科書

（い）を　数えるときは、　２００から　数えよう。　２１０、２２０、２３０、２４０。

だから、（い）は２４０だね。

（う）を数えるときは、　３００から数えても　いいけど、　めもりが　多くて　たいへんだね。

まずは、　いくつの　めもりが　あるか　数えよう。　３００のところから、９この　めもりだ。

でも、３０９じゃないよ。「１めもりは　１０」だったよね。

９めもりだと　９０だ。　だから（う）は、３９０だね。

３００から　数えるのが　たいへんだったら、４００より　１つの　めもりぶん　すくないから、「４００より１０小さい数」　って考えることも　できるよ。

数の線の　数え方

まずは、　１めもりが　いくつかを　考えるよ。

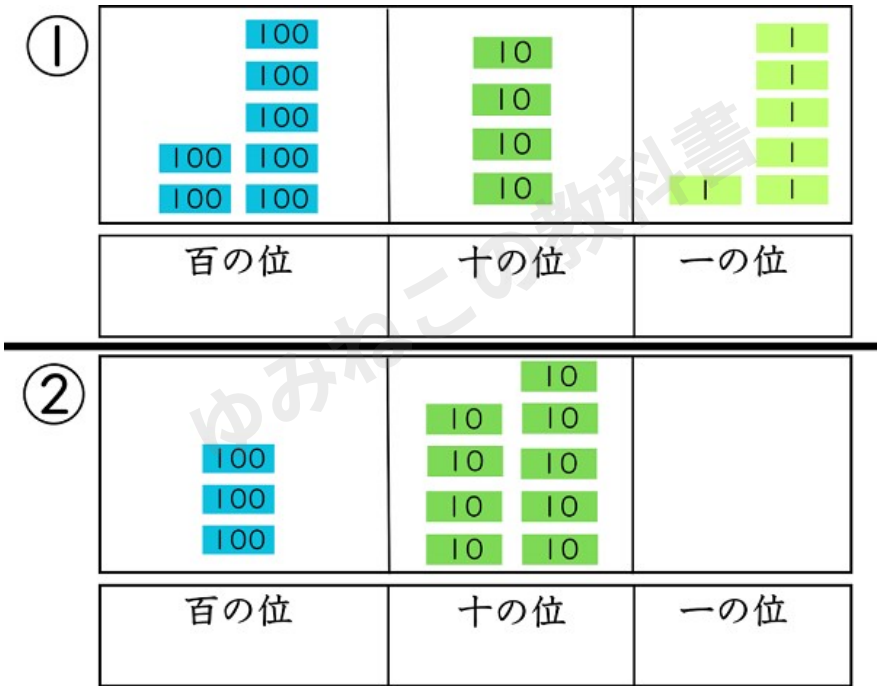
（１めもりが　１０のとき）
「１０、２０、３０、・・・、１１０、１２０、１３０、・・・」のように、数えることが　できるね。

でも、めもりが　多くなると　たいへんだから、　１００や２００のような　「キリのいい数字」から　めもりを　数えると
分かりやすいね。

© ゆみねこの教科書

れんしゅうもんだい

（１）それぞれ　いくつを　表あらわしていますか。　数字すうじで　書きましょう。



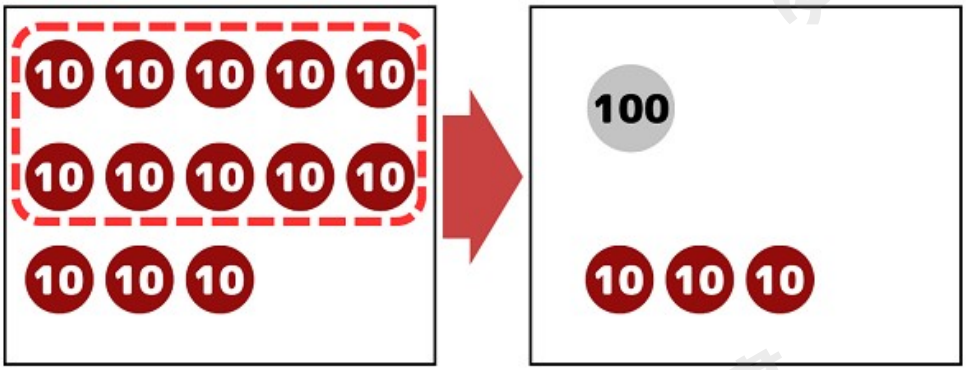
答え
①７４６
②３９０

なにもない位くらいには　０を　書かないと　いけないよ。

（２）１０を　１３こ　あつめた　数は　いくつですか。

「１０のかたまり」が　１０こ　あれば　１００に　なるんだったよね。

© ゆみねこの教科書



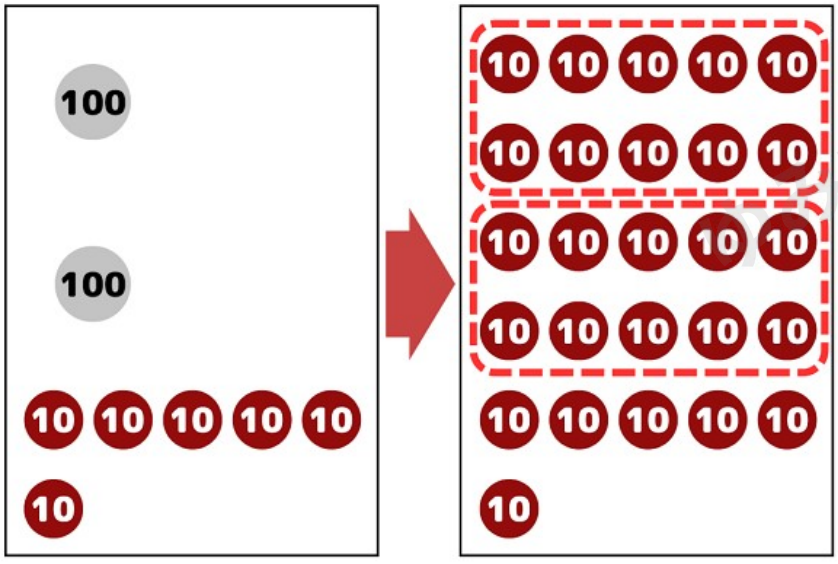
すると、１００と　３０に　できたよ。

答え　１３０

（３）２６０は、　１０を　何こ　あつめた　数ですか。

２６０　ということは、　「１００が　２つ」と　「１０が　６つ」だね。

こんどは、　１００のかたまりを　１０に　くずしてみよう。



© ゆみねこの教科書

これで、　１０のかたまりは　２６こ　になったね。

答え　２６こ

千（せん）

ここまでで、「なん百」という数字は、　数えられるよう　になったよね。

じゃあ、百、二百、三百、・・・八百、九百、この次つぎは　どうなるんだろう？

百が　１０こ　あつまると、新あたらしい数を　つかって　数字すうじを表あらわすよ。

百を　１０こ　あつめた数を　千せんといい、　１０００と　書きます。

数の線を　見ながら、　考えてみよう。

（１）８００は　あといくつで、　１０００に　なりますか。
（２）１０００より　４００　小さい数　は　いくつですか。
（３）１０００より　５０　小さい数　は　いくつですか。
（４）１０００より　１　小さい数　は　いくつですか。

まずは、小さい　１めもりが　いくつか　考えよう。

© ゆみねこの教科書

大きいめもりは　５００、６００、７００・・・って１００ずつ　増ふえているね。　だから、　小さい　１めもりは　１０、２０、３０・・・って増（ふ）えるよ。

「小さい　１めもりは　１０」だね。

（１）は、大きい　めもりで　数えよう。　大きい　めもりは　１００ずつ増ふえているね。　だから、８００は　あと２００で、１０００に　なるね。

（２）は、１０００の　ところから　大きい　めもり　４つぶんを　数えよう。９００、８００、７００、６００！
１０００より　４００　小さい数　は　６００だ。

（３）は、　５０小さい数を　考えるよ。　５０ということは、　小さいめもりが　５つ分だ。
９９０、９８０、９７０、９６０、９５０！

うしろから　数えるのは　むずかしいから、　数の線に　しるしを　つけてから　数かぞえてもいいよ。

（４）１０００より　１　小さい数　ということは、　あと　１増えると１０００になる数　ということだね。　それは　９９９だ！

答え
（１）２００
（２）６００
（３）９５０
（４）９９９

© ゆみねこの教科書

数の大小（数の大きさ比べ）

１００より大きい数（３けたの数）をくらべて、どちらが多いか、どちらが少ないかを　かんがえよう。

３つの　小学校の　子どもの　人数（にんずう）を　くらべてみよう。

東小学校　４９５人
西小学校　５２７人
南小学校　５４１人

東小学校と　西小学校の　人数を　くらべて　みるよ。

東小学校は、４９５人で　５００人よりも　少ないね。　でも、　西小学校は、　５２７人で　５００人よりも　多いよ。

だから、　西小学校の方が　人数が　多いね。

数字を　比べるのは、　「百の位が４」と「百の位が５」と　いうところだけ　見れば、　分かったよね。

じゃあ、西小学校と　南小学校の　人数を　くらべて　みよう。

百の位は　どちらも　５だから、　ここだけ　見ても　どちらが　多いか　わからないね。

だから、つぎは　十のくらいを　くらべるよ。

西小学校は　「十の位が２」で、　南小学校は　「十の位が４」だ。

南小学校の方が　大きいね。

© ゆみねこの教科書

数の　大小は、　しるし　＞、　＜　をつかって表すことは　覚えているかな。

＞　も　＜　も、おおきく　ひらいている　ほうにある　数字が　もうかたほうより　大きいことをあらわす　しるし（きごう）だよ。

＞　と　＜　の　つかいかた

４９５　＜　５２７
４９５は　５２７より　小さい

５４１　＞　５２７
５４１は　５２７より　大きい

と、表すことが　できます。

まず、いちばん　大きい　百の位の　数字を　くらべて、同じだったら、つぎに　大きい　十の位の　数字を　くらべれば　いいね。

© ゆみねこの教科書